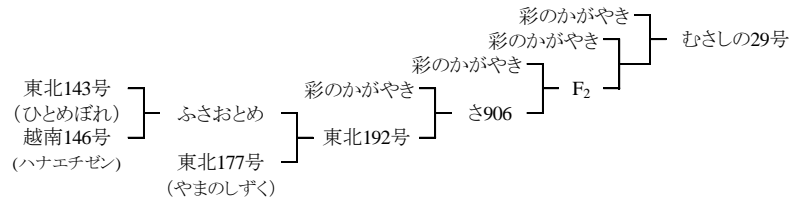


水稻有望系統「むさしの29号」について

農業技術研究センター
品種開発・ブランド育成研究担当

1 育成経過及び系譜

「むさしの29号」は、「彩のかがやき」に「ハナエチゼン」の持つ高温登熟耐性遺伝子「*qWB6*」を導入した同質遺伝子系統の育成を目標として、平成25年に「彩のかがやき」を母親、「さ906(彩のかがやき/東北192号)」を父親として人工交配を行い、戻し交雑育種法とDNAマーカーによる選抜により育成された、晩生の水稻粳種である。



2 品種の特徴

(1)「*qWB6*」の効果により高温耐性を付与

高温耐性は「彩のかがやき」より2ランク程度強いことから、高温時の被害を軽減できる。

(2)「彩のかがやき」より遅い収穫時期でやや低収

出穂は5日遅く、収穫時期は7日程度遅い。収量は6~7%程度低い。

(3)「彩のかがやき」と同じ食味

玄米タンパク質含量は「彩のかがやき」並で、アミロース含量はやや低く、官能食味は「彩のかがやき」と同じでおいしい。味度値は高い。

(4)複数の病害虫に強い

「彩のかがやき」と同じ、縞葉枯病、穂いもち、ツマグロヨコバイに抵抗性をもつ。

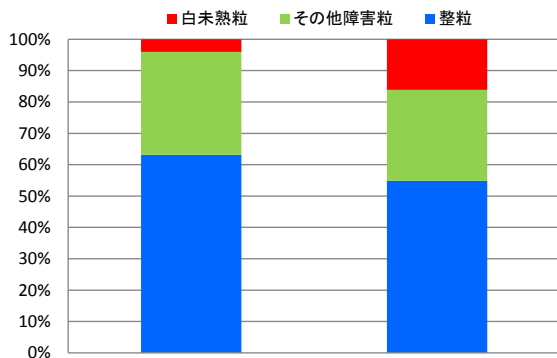


図1 玄米の外観品質(高温年)

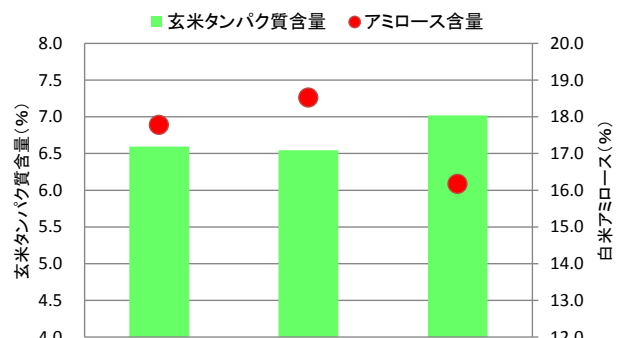


図2 食味関連成分(5月中旬植)

3 平成30年度の取り組み

水稻高温対策特別事業において、県内1か所10a以上の面積で高温耐性の現地実証ほを設置する予定である。